

本日は、仁科記念賞受賞式及び懇親会にお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。ただいまご紹介いただきました、公益財団法人仁科記念財団の理事長の梶田です。

まず、この場をお借りして、当財団の役員を紹介させていただきます。時間の関係で、理事長と常務理事のみの紹介となりますが、理事長は梶田、常務理事は早野龍五、藤川和男、及び矢野安重です。役員一同、仁科記念財団の伝統を受け継ぎ、仁科芳雄博士の遺志をついで、広い意味での原子物理学の発展に貢献できますよう努力しておりますので、引き続きご支援のほど、よろしく願います。

さて、仁科記念賞の授与は、本日 15 時から開催されました仁科記念講演会とならんで、当財団の主要な活動の1つであり、仁科芳雄博士の誕生日にあたる 12 月 6 日あるいはその前後に授賞式を行っています。仁科記念賞は 1955 年度の第1回から 2023 年度の第 69 回まで、合計 200 名の方に差し上げ、広い意味の原子物理学における我が国の代表的な学術賞としての地位を確立しているものと思っております。本年も 5 月末に 2024 年度(第 70 回)仁科記念賞候補の公募を開始し、慎重に受賞者の選考をしてまいりました。安藤選考委員長から、これからご紹介がありますが、本年度仁科記念賞の受賞者の下浦享(すすむ)さん、青木 大(だい)さん、村上修一さん、真におめでとうございます。

そして、この機会に、仁科記念財団の運営にあたり、多額のご寄付をいただいている、日本アイソトープ協会様、また岡山県里庄町にある科学振興仁科財団様に御礼を申し上げたいと思います。また、現在、科研製薬株式会社様、鹿島建設株式会社様、キッコーマン株式会社様、住友化学株式会社様、一般社団法人微細加工工業会様、日本電子株式会社様、三菱重工業機械システム株式会社様、DMC 森精機株式会社様の 8 社様と個人会員 1 名様に協賛会員となっただき、本財団の運営にご協力をいただいております。どうもありがとうございます。皆さまからいただいたご支援は、最大限有効に財団の運営に、そして原子物理学の発展のために使わせていただきます。また、関連して、仁科記念財団は、本年 5 月 1 日付で内閣総理大臣より「寄付金の税額控除適用法人として証明」を受けました。これにより、仁科記念財団に対する個人の方の寄付または賛助会費については、確定申告の際、従来の「所得控除」に加えて上記「税額控除」のどちらか有利な方式を選択できるようになりました。是非、仁科記念財団に対するご寄付をご検討いただければと思います。

私からの挨拶は以上とさせていただきます。本日はよろしく願います。